

2015.10.01

小原院長の“いま一番気になる人・仕事”スペシャル対談

神戸慎治×小原忠士

平成2年の開院以来、25年間にわたり地元連島を中心に多くの住民の方から信頼を頂き、皆様の健康に貢献してきた小原整骨院。その小原院長が“いま一番気になる人・仕事”というテーマで、ゲストの方と対談をして頂きました。今回は、ノア・インドアステージ株式会社 倉敷校の運営サポート主任である神戸慎治さんをゲストにお招きし、仕事への向き合い方、夢について語り合っていました。(2015年7月30日(木)ノア・インドアステージ株式会社 倉敷校にて)

「地方だからとか…そういう常識を変えたい。夢や希望を持っていい、変える必要がある。変われるんだ。都市だからできるということではない。ここ倉敷でも変えることができる！っていう気概を持って。」

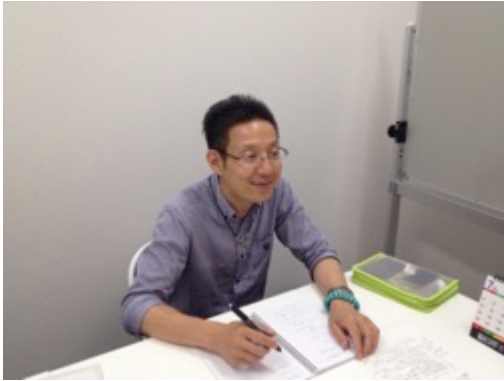
ゲスト紹介

■ 神戸慎治 (ノア・インドアステージ株式会社 倉敷校 運営サポート主任)



1967年1月23日京都生まれ。三菱自動車エンジニアリング入社して5年。その後、自営業とテニススクールのコーチをしていたが、ノア・インドアステージに出会い、就職。ノアで転勤を重ねながら経験を積み、倉敷校開校の責任者に3年前任命。店舗の移転からその立ち上げに関わり、1年で採算ベースに乗せるなど実績を作り、その手腕を見せた。根っからのスポーツマンで、趣味のスキーはSAJ1級の資格を持っている。

■ 小原忠士（小原整骨院 院長）



1964年 倉敷市出身。地元である倉敷市連島で開院以来 25年にわたり地域の皆様の健康に貢献してきた小原整骨院の院長。柔道整復師としての技術力は当然、その穏やかな人柄で多くの患者に慕われ、スタッフからの信頼も厚い。6月には株式会社エミリンクとして法人設立。代表取締役となる。

■ 司会進行 俣野浩志（株式会社パッション）

1970年 岡山市出身。一般社団法人ウェブ解析士協会認定 初級ウェブ解析士。経営修士（MBA：香川大学大学院地域マネジメント研究科）。大学でマーケティングを学んだ後11年間印刷・デザイン業界に勤務。2009年に岡山県産業振興財団主催のベンチャー・ビジネスプランコンテストにて奨励賞を受賞。2013年大学院にて「住民主体の体験交流型プログラムが地域社会に与える影響についての考察」というテーマで、NPOのまちづくりを研究した。

自分は5年間死ぬ気で頑張ればできる！という考え方を持っていたので、「よし、5年間頑張ったろう」って続けてたんですよ。そしたら向こうは「あいつ辞めねーよ」って話になって「どうする？」って…（笑）。

司会：今回は関西を中心にインドアのテニススクールを展開されているノア・インドアステージ株式会社 倉敷校の神戸コーチとの対談ということで倉敷校にお伺いさせていただいています。まずは小原先生と神戸コーチとの出会いをお聞かせください。

小原：実は小原整骨院の倉敷分院である「こはら鍼灸整骨院 倉敷院」はノア倉敷校に併設されていて…神戸コーチとの出会いは、小原整骨院の2店舗目出店に関わりがあるんですよね。その節はお世話になりました（笑）。それ以外でも昨年からはまった“のあ祭り（感謝祭）”でも協賛させていただいており、同一敷地内にあるユニクロとやよい軒を含めた店長会議でも一緒させていただいています。

神戸：そうですね。ノア倉敷校移転時の打ち合わせからですね。地域密着、地域活性など小原整骨院とは方向性が同じなので話が合いますね。

小原：では早速ですが、神戸コーチがこの仕事を選んだ背景を伺いたと思います。

神戸：小学校のときの作文では大工になりたいと書いたんですよ。そこから将来の夢についてはあまり考えずに学生時代を過ごして、いざ就職するときにサラリーマンしかなれるものがなくて…選択肢がないというか、知らないから選べないというか…。そうは言いながらも、京都にある三菱自動車の子会社に入って設計部門で部品のカタログを作っていたんです…5年くらい。とりあえず一人前になりたいと5年間頑張ったんですが、人一倍頑張る性格で、何かと任せられることが多くなって…組合の支部の仕事をやるように。そうすると。組合や会社組織のこともだんだんわかってくるようになって…このまま大きな組織の中にいるのか、小さなことを自分の力でするのか…独立するか考えるようになったんです。

小原：何かやりたくなってウズウズと…。

神戸：そうですね（笑）。とにかく自分で何かしようと思って、ブローカーみたいなことを始めて、スーツケース一個で。最初はそうめんを扱ったかな。とにかくいろんな商品を扱いましたね。一応、ご飯を食べていけるくらいの収入はあったんですよ。大儲けはしなかったんですが、一人食べられるくらいには…。

そんな中、今後この事業を大きくするか、自分が食べていけるだけで行くかどうしようかと悩んでいたんです…。空いた時間に…近所のテニススクールでコーチの募集があったので初心者なら教えられるかなと思って…そこで働くことに。結局、ブローカーはそのまま続けて38歳までやっていました。テニスのコーチも午前中にやりながら。

小原：そうなんですか…選手からコーチに転向したんじゃないんですか？



神戸：ええ（笑）。実は、そこのヘッドコーチが自分で断るのが下手で、この日に練習があるからおいでと言われて行ったら、レベルの高い人達ばかりで…。普通は自分のような素人は場違いだと感じてみんな辞めるんですが、自分は5年間死ぬ気で頑張ればできる！という考え方を持っていたので、「よし、5年間頑張ったろう」って続けてたんですよ。そしたら向こうは「あいつ辞めねーよ」って話になって「どうする？」って…（笑）。

小原：ははは。

神戸：負けん気が強いんですが、逆に言うと空気が読めないというか…。まあパソコンはできたので、そういう仕事もしながら、ヘッドコーチのレッスンのパートナーをやらせてもらって、だんだんできるようになっていったんです。そのうち学生アルバイトのコーチが休みになって、自分の出番ができて、午前中の僕の時間が埋まるようになって…。そのヘッドコーチは常に京都で上位に入るほどの人で、その方のやり方を教えて貰って、自分なりに研究していったんですよ。自分の中では上手だとは思っていないのですが、周りからは上手いと言われるようになっていったんです。25歳から12、13年いたかな。

それからいろいろな経緯があって、そのスクールが閉校したので、テニスコーチの口を探してたんですよ。そんな時、京都にノアが出来て、ご縁があり勤めることになったんです。

小原：それからノアで活躍されているんですね。やはりノアには神戸コーチが魅力に感じる何かがあったんですか？

神戸：ノアの考え方、経営理念や運営方針が掲げてあって、それが気に入ったんです。これができる会社なら絶対、地域や会社、社員もすごくなると思ったんです。ノアにお世話になるようになって、どんどん責任のある仕事を任されるようになって…当時は多くのレッスン数をしていましたね。寝る暇がなくて帰りに事故するほど、働いていました。帰っても寝た記憶もない状態で。でも、それを経験したのが、自分の強みになりましたね。3、4年そういう生活が続いたんですが、ほんと出口のないトンネルのような感じでした。その時は38、39歳で、まだアルバイトだったんです。ノアは30代後半は社員にしないと聞いてましたが、上司の推薦をいただき、社員に。当時のノアでは異例の人事だったと思います。普通は20代しか採用しない、もしくは役職か引き抜きで経験者しか採用しなかったのです。

小原：負けん気の強さもですが、やはり神戸コーチは努力の人なんですね。倉敷へ来られてからは？

神戸：倉敷はあるテニススクールの立て直しから始まったんですが、来た時には、生徒数も少なく、上手な方が多すぎて未経験の方がテニスを始めるにはハードルが高いスクールになっていました。そんな中、スタッフもレッスンばかりで自己啓発の勉強をする時間もなく、頑張りが成果に繋がりにくい環境になっていました。



小原：確かにそうですよね。上手な方たちばかりの中で、孤立すると辛いですよね。気にかけてくれる方が居ればいいのですが…。その状況をどう変化させたのですか？

神戸：新規の生徒を募集する前に、内部環境の整備が必要だったんですね。まずスタッフにノアの考え方とかノアとしてやっていくことを学んでもらうようにしました。人は気づいて変わるしかないなので、気づいてもらう環境をいかに作るかがポイントなんですね。変わっていくにはそういう環境を作るしかないんです。そこで、まず他のノアを見に行ってもらいました。自分たちのスクールと何が違うか感じてもらい、どうなりたいかイメージしてもらうために、スタッフを引き連れて他の地域のノアを回ったんです。

それと、自分が受けた研修を真似して、誰もやらなかったトイレ掃除を率先してやり続けました（笑）。しばらくしてだんだん変わっていったんです。スタッフの意識が前向きに変わってきてからは、研修も入れて、いろいろな改革をやりました。世間を知ってもらう、中小企業を知ってもらう、仕事の仕方、仕事とは何か…などですね。時にはレッスンを休んでも行ってもらいました。今ではずいぶん変わりましたね。

小原：なかなかご苦労が…。人の嫌がることを率先してリーダーが行うというのは、よく言われることですが、実際はそのリーダーが続かなかつたり（笑）…。スタッフのマインドセットを整えたわけですが、それ以外の仕組みなどはあるんですか？

神戸：あります。世間とはなにか、社会とはどのように回っているのか、会社が生き残っているためには何が必要なのか…とか、幹部なら知らなくてはならない、同じ方向性の考え方が必要だということで共通言語を作ってベクトル合わせをしています。それが無いと人同士が繋がっていかない、語り合えないですから。ノアでは社内用のベクトル合わせのためにイズムやフィロソフィーを作っています。京セラの方にご教授いただいて。ノアの社長は盛和塾に行っているの、稲盛さんがおられて…フィロソフィーを作ったんです。ノアイズムは5、6年前、フィロソフィーは2、3年前にできました。これができて伝えやすくなりましたね。

小原：なるほど、それは必要ですね。実は当社も現在取り組んでいるんですよ。最終的にはクレド（経営理念）という形で見える化して浸透させようと思っています。そういったイズム（主義・主張）やフィロソフィー（哲学）というものが、社風として根付けば強い組織が出来上がりますよね。

今まで、様々な取り組みをされてきましたが、今後はどのようなテニススクールにしたいですか？

神戸：イノベーション…新しい風を起こしたいです。社会の常識を変えたい、テニスに関してですけど。例えば、健康保険を活用したアイデアがあるんです。以前、政治家を目指している方に相談したのですが、地方の町だと市民サービスに予算をつけてテニス事業も作れる、という話を聞いたので、こうした民間のスクールが市政にも繋がっていけば、住民の社交の場という形で、地域社会に対してテニスだけではない役割ができるのではと…人口の少ない地方でもテニススクールを作れるんじゃないかと考えています。ただのテニススクールじゃダメですが、ノアであれば、様々な取り組みができます。全国には素晴らしいテニススクールはたくさんあります。テニススクールとしては世界には通用しないかもしれませんが、しかしサービス業という見方をすれば、通用するんじゃないか。それも一つの夢。

小原：サービス業としての一面を捉えて新しい可能性を開こうとするのはすごいですね。テニススクールは健康産業といわれているので、予防医療や、精神的なものでコミュニケーションに困っている人などにも良いかもしれませんね。利害関係のない仲間ができますし…。長期の視点で考えると、倉敷市の医療費削減に貢献できますよね！

神戸：実は、スクール事業としては都市部での展開は型ができてきました。そこで次は、新しいコミュニティの場を地方都市でつくるにはと考えた方がイノベーションを起こせる可能性があると思うんです。テニスだからできるというのものもあるんです。テニスは始めるにもハードルが低く、誰もができます。もちろん障がいを持たれている方でも。

例えば、みなさんプロになりたいわけではないので…テニスが上手くなることも目的の一つですが、それよりもテニスをする中で、どのように欲求を満たしながら、生き甲斐や、楽しさ…その人の生活になくしてはならないような場にするか。ということが大切だと思うんです。ありがたいことに、月に一万円以上でもみなさん来てくださっています。価格以上の価値があると思ってくださっているんですね。ネット時代で人間関係が希薄になっているなかで、本当の人間関係ができる場を提供していくことは大切な役割だと思っています。気持ちの良い場所にいたければ、皆さんも気持ちの良い人にならないとだめですよ。こちらが合わせるのではなく、みんなと一緒に気持ちの良い人なりませんか？という考え方なんです。

ですから、まず僕らがマイナス言葉を使わないこと。気持ちの良い触れ合いをして、それを気に入ってもらって、気に入ってもらった人が、他の人を連れてきて、また良い気持ちになって…。こんな善循環を作っていきたいんです。

小原：私も治療院を経営しているので、その善循環はとてもよく分かります。治療院ですから社交場というわけにはいきませんが、来院される患者さんが元気になって帰っていただけるように考えると、私たち治療家がネガティブだとダメですね。マイナス言葉を使わない、ネガティブに陥らない秘訣のようなものはありますか？



神戸：そうですね。経験談からなんですが、仕事をやらないといけない、と感じることが強迫観念で、これがネガティブになっていくきっかけだと思うんです。ですから、やらないといけないことを、できるだけ減らしたいと思っています。逆に言うと、やりたいことをやれる環境にしたいんですね。そうしたら仕事もワクワクします。楽しくなるんですね。忙しいとかしんどいとかが無くなって。もっとこうしたらお客様に楽しんでもらえる、喜んでもらえる、と

思ったら、人はそうしてあげることが苦でなくなってくるんです。自分の欲求が誰かに喜んでもらえることで満たせるのであれば、それが一番だと思うんです。物欲は自分だけのもの。他人に喜んでもらえることは最高の喜びでしょう。

私が、この仕事を辞められない理由があるんです。それは、お客様のテニスのプレーが変わった瞬間。できなかつたことができた瞬間がとても嬉しいんです。表情が変わって、言葉が変わって、こちら鳥肌が立ってくるほど感動します。そういう瞬間を目の当たりにすると、辞められないです（笑）。いちコーチとしてのやりがいというか、この仕事の醍醐味ですね。自分が必要とされるのを感じられると頑張ろうと思います。ついつい無理をしてしまうほど…（笑）。

小原：なるほど！神戸コーチにとって、人の成長に関わることは最高の喜びなんですね！

神戸：ははは。今はマネジメント側の仕事が増えていますが、私は現場をととても大切にしています。現場を減らしても良いと思いますが、どこかでプレーヤーで居続けなくてはならないと…経営と現場との間にギャップがあって離れてしまえば、組織は機能しません。かといって、いつまでも現場にとどまっていたら“今”しか見えない状況に陥ってしまうんです。未来が創れない。そのあたりのバランスを最近はとても意識していますね。

先ほどイノベーション…新しい風を起こしたいと言いましたが、その一つにノアが倉敷の中心になる役割を果たせるようなものになりたいという夢もあるんです。地域の活性化も含めて。倉敷の中心となる存在。実際にのあ祭りでも、周りの企業を巻き込んでいるんなチャレンジをしています…小原先生にも毎回お世話になっていて…そういったことをどんどんやりたい。最近ではスタッフが会社や地域の常識から解放されてきています。例えば（倉敷では）、これくらいの値段だからこれくらいのサービスでいいんじゃない？他のところもみんなそうじゃん！という常識が変わってきました。地方だからとか…そういう常識を変え、夢や希望を持って、変える必要がある。変えられるんだ。都市だからできるということではない。ここ倉敷でも変えることができる！っていう気概を持って。

岡山は保守的な県民性だと聞いてきました。人間は、環境に適応するので、年中天候が良く、災害の少ない豊かな地域ではコツコツ真面目に働くことが、安定した生活をもたらして

くれます。僕も大手で働いていたときは同じ考えでした。そんな場所で高いところに夢を持つことは大変です。大変なことまでして夢を叶えたいのか？という、そこまで大変なことをしなくても、それなりに生活できるし、それなりのことができるので、大きな夢も持たなくても良いと考えてしまう。ハングリーだと夢を持つんだろうけど、ハングリーではなくても、それなりに楽しんで生きてゆけるので…。それは良い悪いということではなくて、それぞれ人の選択と思うんですよ。ただ、人生、いろんなことができる可能性があるんで、どうせ生きるなら精一杯生きていければ良いのにつてね。まあ僕も昔は、仕事は生活や趣味のお金を稼ぐためにする苦行だと思っていたんですが…。

小原：仕事と自分のやりたいことが一致する。夢を仕事にすることは、難しいというか…なかなかそう言い切れる人は少ないと思うんですが…。現在の社会や育ってきた環境などに、知らず知らずに枠にはめられた考え方を刷り込まれていたんでしょうか。人と同じでなければならぬ、人と同じことができなければ…というように。子ども時代は夢を持つことを勧められ、大人になったら、その夢で食べて行けるのか？と、常識的な言葉で否定されてしまう。本当は私たち大人が自分の夢を実現させて、子どもたちに夢は実現するんだというお手本、未来を見せてあげなければならないのに…その私たち自身がドリームキラーなんですよ。

神戸：本来は背中を押す側にならなくてはいけないんですけど、残念なことにそういう方が多いですね。僕は、マネジメント側を経験し、自分の役割はノアという職場をワクワクする場所にしなければと思っています。そうでなければ、常識をくつがえしたり、変わるんだ！とはならない。ノアの社員はみんな運営側だと思っています。契約社員やアルバイトもいますが、雇用形態はそれぞれの都合であって、思いは同じであって欲しいですね。なんのために。誰のためにとかはね。ですから、アルバイトでもパートでも「やりたいことがあるなら、それを教えてください」と、そして「是非それを教えてください」と言っています。

小原：環境を作ることで人を育てるんですね。やりたいことをチャレンジさせてもらえるというのは、素晴らしい環境ですね。そこには、自己責任も伴いますし、おそらく、一人の力ではできないでしょうから、役割分担など他人との協力、モチベーションの維持、具体的な調整などのコミュニケーション…人間的にも成長できるでしょうね！

神戸：そうですね、言い出した本人の熱い思いが一番大切で、そこに熱意がないと何事も上手く行きません。でもそういう風にチャレンジ精神を持つスタッフがどんどん育ってきているのが、今のノアなんです。嬉しいことに！



小原：素晴らしい！当社も色々とコラボさせてもらっているんで、ノアのそういう社風を学ばせてもらうためにも…今以上にスタッフ同士の交流を進めていきたいですね（笑）。

神戸：こちらこそ！また恒例の“のあ祭り”も開催しますので、是非、お願いします！

小原：今日は長時間にわたり、素晴らしいお話をありがとうございました！またFMぐらしきの「気まぐれ！メンズトーク」でも楽しいお話を放送できればと思っていますので！

神戸：いやあ～そう言われると今から緊張しますが…（笑）。こちらこそ、今日はありがとうございました！

.....

- ノア・インドアステージ株式会社 倉敷校
〒710-0003 倉敷市平田 708-5
TEL 086-430-0400 FAX 086-430-0401 URL <https://www.noahis.com>

- 小原整骨院（本院）
〒712-8014 倉敷市連島中央 2-3-22 TEL&FAX : 086-444-9595
受付時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00～19:15	○	○	○	×	○	×	×

こはら鍼灸整骨院（倉敷分院）
〒710-0003 倉敷市平田 615-1 TEL : 086-486-3363